

第 3 回環境審議会（中間報告）での意見及び回答

○日時 令和元年11月25日（月） 13:30～15:26

○場所 長野県庁議会棟 401号会議室

No	意見等	回答
1	委員からの要望によりトンネル出入口付近での騒音測定を実施した際の測定値はどのくらいだったのか。	新幹線の軌道から垂直方向に 25m離れた地点とトンネル出入口から内部へ 25m離れた地点がほぼ同じ減衰傾向を示しました。そのため、トンネル内部に行くほど十分減衰すると判断しました。
2	第 4 回専門委員会において、「400m地点では騒音レベルが 70dB を超えることはないだろうと評価できる」という結論に至った根拠は何か。リニア実験線での実測結果は参考にしたのか。	実測した結果と JR 東海が行っている環境影響評価書を元に行った予測結果の内容を比較し、実測値と予測値にどのくらいの乖離があるのかどうかを確認しながら予測しております。空気吸収などの影響を加味した騒音レベルのばらつきを考慮した上で、400m地点でおそらく 70dB を下回るであろうと判断しました。
3	リニア沿線の他県が指定幅を 400mとした根拠について。	他県もそれぞれ騒音予測を行いながら幅の検討を行っており、その結果を基に 400mで 70dB を下回ると判断しております。
4	指定幅を検討する上で、強風が吹く場合などについて考慮しているのか。	「強風が吹いた時」等の騒音レベルのばらつきや空気吸収などの影響を細かく考慮しています。
5	山梨リニア実験線を視察したとき、実際のリニアの走行音はどのように感じられたか。	展望台の近くでは、すぐ近くをリニアが通るため、かなり大きい音でした。実験線が走っている高架下から視察した時には、防音壁しか設置されていなかったため、やはり音がしているのはよく分かりました。また、防音防災フードという防音設備が設置されている場所で聞いた時には、実際いつリニアが通過したのかわからないというような印象でした。
6	「地域の土地利用状況を十分に勘案し、極端に地域差が起こらないよう指定すること」とはどういうことか。	土地利用状況とは、工場や商業施設がある、又は住居が立ち並んでいる場所である等の状況を指します。どこを境に一つの地域として捉えるのかによって、地域差が出ることも考えられ、あまり細かく極端に地域を分けてしまうと、全体的な沿線地域の土地利用の状況を把握できない可能性が考えられます。そのような観点から公平に土地利用状況を判断するという主旨です。